

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十八年八月度 入選句 (投稿総数二千九百二十八句・小中学投句数二千三百二十三句)

### 特選

青空を 入道雲が の っ と っ た 大垣市 小塚 允寛(小五)

雲一つない空も真つ青に澄んだ暑い暑い夏の日、作者は突然に山の端から湧き上がるように出てきた入道雲を見たのですね。その競りあがるように出てきた様子を「青空を入道雲がのっとな」詠んだのですね。このような自然の様子、気象状況をまるで入道雲が自分の意志をもって大空に挑みかけているかのようにとらえたのが偉大ですね。自然現象もこのように見方をかえて生き生きととらえると俳句も生き生きとしてきます。

はにかんで背のびして着るゆかたかな 美濃加茂市 木股 紗弥(中二)

作者は中学二年生。普段は洋服で過ごしていると思います。その作者が初めて浴衣を着ることになったのですね。新しい浴衣、初めて着る浴衣、ちよつと長いような気もするけれどちよつと恥ずかしい気もするけれど、「背のびして着る」というのがいいですね。背筋を伸ばしてしゃんと浴衣を着た作者の様子が浮かびます。身も心も成長した様子が伝わってきます。

夏の川 私 の 心 も す き と お る 大垣市 樋口 実伶(小六)

川の水の色や流れは四季折々にいろいろな色や流れを見せ、それを見て、いろいろなことを感じる人もあると思います。作者は暑い夏の日、キラキラと輝き、透き通った川の流れを見て、自分の心も「こんな風に何も隠すことなく、すっきりと見通せるようにしたいな」と思ったのでしょうか。作者の素直さ、純真さに読む私たちも心がすっきりします。

### 秀逸

つゆ晴れ間ばししょうのほほえみ晴れてきた 大垣市 椿井 楓果(小六)

くもの巢はあまつぶさえもつかまえる 大垣市 須藤 滉平(小六)

ひまわりがこつちをむいてわらってる 大垣市 棚瀬 湧大(小三)

せみの声耳にいつでも残ってる 大垣市 西脇 颯汰(小六)

ばししょうさん仲間と別れた夏の川 大垣市 林 博文(小六)

たきの音友の声をかくすまで 大垣市 赤羽 泰地(小六)

ミンミンとせみも平和を願ってる 美濃加茂市 長谷川 加苗(中二)

夏休み遊ぶ予ていがてんこもり 大垣市 炭竈 凜奈(小四)

はなびみるわたしのくちがあいている 大垣市 さか口 みわ(小二)

父の日にルンルン父にふと笑う 大垣市 川瀬 桃愛(小五)

入選

水たまり夏ぐもうつしてゆれている 大垣市 野田 康成(小六)

青ば風はいくのノートをゆらしてる 大垣市 松岡 大洋(小六)

怒られて窓から見上げた夕立雲 大垣市 安藤 毬里(小六)

ばしよ像葉桜たちにかこまれて 大垣市 中尾 麗菜(小六)

夏の空水門川に流れてく 大垣市 梅村 はる(小六)

自転車でトンボと一緒にうち帰る 美濃加茂市 森 菜々穂(中二)

こえならばせみにまけない部活動 美濃加茂市 加藤 展弥(中二)

スイカ割り百発百中剣道部 美濃加茂市 坂井 真樹(中三)

ふろそうじいつのまにか水あそび 大垣市 三輪 亮太(小四)

妹ときつちり分けるよさくらんぼ 大垣市 出井 陽(小四)

入選

せん風機今日のページをめくってく 大垣市 森本 彩乃(小四)

雨上がりかえるがみんな歌ってる 大垣市 青山 和詩(小四)

あせがでるノートやかみにおちちゃった 大垣市 なばり わか(小二)

あさはやくたんぼのかえるぼくおこす 大垣市 いのうえ はると(小二)

あさがおはしんぶんやより早おきだ 大垣市 川瀬 心晴(小二)

かたつむり体をのぼしさんぼ中 大垣市 伊藤 大河(小五)

あじさいが雨つぶつけてシャンと立つ 大垣市 関谷 泉吹(小五)

いきとめてせんこう花火おわるまで 大垣市 こじま たける(小二)

かなしげな芭蕉とぼくいん夏おわる 大垣市 山田 茉依(小六)

七夕竹みんなのねがいつり下げて 大垣市 磯貝 翔人(小六)

選者吟

ほうせん花咲いて二学期始業式

祐子